

ワークショップの開催日程(予定)

第3回ワークショップ (7月26日) テーマ=道路交通・景観・歴史

第4回ワークショップ (8月19日) テーマ=ごみ・人

第5回ワークショップ (9月23日) テーマ=地球環境 (温暖化対策
エネルギー等)

第6回ワークショップ (10月21日) (総括: まちの将来像など)



第2回オープンハウス、ご来場ありがとうございました!

8月9日(木) 9時30分から21時30分まで、室内プール3階体育室において、第2回オープンハウスを開催しました。

13名の市民の方が来場し、ワークショップで発表された意見について、熱心に質問したり意見を述べられました。そのほか、市政全般に係る意見も多数寄せられました。概要は以下のとおりです。

(主な意見)

- ・用水路(跡)の保全・整備を計画にしっかりと位置づけ、推進してほしい。
- ・国分寺市はあまり特色のないまちだと感じている。緑の保全も大事だが、開発によって市が活性化することが重要だと考える。
- ・市は史跡など観光資源を積極的に活用し、アピールすべきである。
- ・日吉町に住んでいるが、交通不便地域なので国立へ買い物に行く機会が多い。スポーツセンターへのアクセスも不十分なので、ぶんバスの運行、ルートの見直しを行ってほしい。
- ・国3・2・8号線の付近に住んでいるが、完成後の環境面に配慮してほしい。



※環境基本計画の見直しについて、ご意見・ご要望があれば、下記宛までお問い合わせください。

【連絡先】 国分寺市 環境計画課 環境計画係
 (〒185-0013 西恋ヶ窪4-9-8 清掃センター敷地内)
 電話: 042(328)2192 FAX: 042(326)4410
 Eメール: kankyoukeikaku@city.kokubunji.tokyo.jp

環境基本計画

<第4号>



市民ワークショップ ニュース



発行日:平成24年9月6日
 編集:国分寺市環境計画課

電話:042(328)2192
 Eメール:kankyoukeikaku@city.kokubunji.tokyo.jp

第4回ワークショップでは、「ごみ」・「人」をテーマに、現状の把握、課題について話し合い、望ましい将来像について検討しました!

- 現在、環境基本計画の見直しを行っており、5月から10月までの間、市民ワークショップ(以下、「WS」と表記します。)を開催しています。WSでは、テーマに沿った現状の把握や課題の抽出、望ましい将来像について検討を行っています。
- 8月19日(日)の第4回WSでは、参加者19名が3班に分かれ、「ごみ」・「人」をテーマに、ごみの減量やコミュニティの再生などに関する課題点を挙げ、これらが解決した場合の望ましい将来像について検討しました。



第5回ワークショップのお知らせ ※今回の検討テーマは「地球環境(温暖化・エネルギーなど)」です。ご参加をお待ちしています。

日時:平成24年9月23日(日)
 午後2時から午後4時30分まで
 場所:ひかりプラザ
 2階 203・204号会議室
 電話 042(595)8865

(注意)ワークショップ参加を希望される方は事前登録が必要です。上記環境計画課までご連絡ください。傍聴可能。



3グループの発表内容は以下のとおりです！

※紙面の都合上、一部意見を省略しています。

第4回では市民、事業者、市のそれぞれの立場から、“ごみ”、“人”のテーマについて、現状や課題について話し合い、望ましい将来像について検討しました。

“人”に関しては、自治会の加入率の低下に各班ともに危機感を抱いており、地域におけるクリーン運動、(資源物の)集団回収、公園清掃などへの参加を促進することが必要との認識でした。

また、集団回収が増えれば、地域コミュニティの活性化のほかに、ごみの減量にもつな

がり相乗効果が期待されるので、市はもっと積極的にPRすべきであるとの意見が多く出ました。“ごみ”に関しては、参加者の関心が高く、「市は明確なビジョン・方針を打ち出し、市民に協力を求めるべき」「小中学生の環境教育・環境学習の充実が必要」「家庭の生ごみを集中的にたい肥化すべき」といった意見がありました。

(※) 環境基本計画に関するご意見があれば、環境計画課までご連絡ください。



A 班

【人】

- 世代間の交流を図る施策が必要である。
- 地域の中で要介護者の支援など、支えあいやつながりを持つことが必要。
- 自治会の加入率が38%と低いため、加入率を高める施策が必要。
- 自治会同士の横つながりを支援する自治会センターを設置する。
- 住民自治と行政の関わり方を整理する必要がある。
- マンション独自の自治会の設立、ないしはマンション住民の自治会加入を促進する施策が必要。
- 市役所の窓口（市民課など）で自治会加入を積極的にPRする。
- 新たに民生委員をサポートする立場の人（非公務員）を設け、地域と行政の橋渡しをする。

【ごみ】

- ごみ焼却施設に対する市の方針を早期に決定する必要がある（小金井市との関連も含めて）。
- “ごみを出せば収集してくれる”という意識を変えるためにも、ごみの分別の必要性を訴える（啓発活動の展開）。
- ごみ処理費には莫大な税金がかかることを認識させ、市民の協力を求める。
- ごみ減量によって削減された予算は緑の基金などに活用する。
- 環境教育・環境学習として、小中学校生の各段階でごみ問題を学習し、意識啓発を図る必要がある。
- ごみを減らす生活の実践例を情報提供する。
- 生ごみの有効利用として、生ごみをたい肥化した肥料を市民農園等で活用する（食の循環）。

B 班

【人】

- 自治会・町内会の組織率を向上するため、若い人に市民活動への参加を促す。
- 自治会・町内会と学校・PTAの連携が必要である。
- 町会単位でのクリーン運動、資源物の集団回収、公園の清掃などにより、地域コミュニティの再生を推進。
- 自治会・町内会（コミュニティ）の強化が必要である。
- 市民による公園や緑地の運営管理を推進すべき。
- 災害時の生活用水確保のための民間井戸の活用（地権者の協力）
- 地域ぐるみの防犯まちづくりの推進（見守りパトロールなど）

【ごみ】

- (市)
- 大胆な減量目標や方針等（処理方式）の早期提示が必要。
 - ごみ減量の全庁的な取組・体制づくりが必要である。
 - 非焼却などごみ処理方式について、市の調査・研究体制が必要である。
 - 各家庭の生ごみを回収し、たい肥化する（集中方式）。
 - 市の印刷物（封筒）などに生ごみ減量の標語を入れてPRする。
 - 幼稚園、小中学生における環境教育・環境学習の充実を図る。
 - 小・中・高校生を対象とした月1回の市内一斉清掃日を制定する。
 - 集団回収の積極的なPRにより普及を促進する。
- (市民)
- マイバックの利用、不要な景品などはもらわない。
 - “生ごみ 水きり ひしぼり”の徹底、ごみ分別の徹底。
 - ごみ拾いをしている方への表彰制度を考える。
- (事業者)
- レジ袋の早期有料化の実施、過剰包装をやめる。
 - 共同住宅の居住者へのごみ集積所の整理整頓を指導する。

C 班

【人】

- 高齢者見守りボランティアが必要である。
- 高齢者対策として振り込め詐欺防止協会との連携
- 身体の不自由なお年寄りのための買い物の代行（地域における）
- 若年サラリーマン、学生を巻き込んだ地域活動の推進
- 地域でのあいさつ運動の展開（防犯まちづくりにもつながる）
- 町内で共同作業（清掃活動など）を設定する。
- 市や教育委員会を中心とした、いじめ撲滅宣言

【ごみ】

- (市)
- ごみリサイクルカレンダーに、「ごみの減量化の必要性」「市民に求められる行動」などを明記し、啓発する必要がある。
 - 広域的なごみ処理（焼却炉設置）計画を立てる必要がある。
 - ごみ行政に関する市の情報提供の強化が必要である。
- (リサイクル)
- 生ごみは各家庭の庭でたい肥化処理する。
 - 不用交換品情報の拡充を図る必要がある。
 - リサイクルマーケットのウェブサイト化
- (分別)
- ごみ分別など市の指導体制の強化が必要である。
 - 資源回収の仕組みの周知徹底（コスト負担など）
 - 集合住宅での分別徹底（入居者への説明・分別意識の向上）
- (有料化)
- 有料化による収入はごみに関する特定財源とする。
 - ごみの有料化はごみ出しに対する意識をただす効果がある。
 - ごみの有料化袋には広告を掲載し、制作費を軽減させる。

<望ましい将来像>

- ①コミュニティの再生創出（人）
- ②市民の自覚と実践によるごみ減量（ごみ）



<望ましい将来像>

- ①安全 安心 人のきずな めくもり（人）
- ②持続可能な循環型社会
～ごみゼロ 燃やさない 埋めない～（ごみ）



<望ましい将来像>

- ①退職者の活用（人）
- ②ごみを出さない生活へ改善（ごみ）